



警告のニューズレター「角笛」

発行日：2016年7月発行（第75号）

発行：警告の角笛出版

価格：フリーペーパー

角笛 HP: <http://www.geocities.co.jp/Technopolis-Mars/5614/>

【目次】

◎巻頭メッセージ：「知識の鍵を持ち去る」 エレミヤ

◎証：「土曜日の集会で教えていただいたこと（3）」 E3

◎お知らせコーナー 「本の紹介」

[巻頭メッセージ]

「知識の鍵を持ち去る」

by エレミヤ

テキスト：ルカ 11：52 忌まわしいものだ。律法の専門家たち。あなたがたは、知識のかぎを持ち去り、自分もはいらず、はいろいろとする人々をも妨げたのです。」

本日は、「知識の鍵を持ち去る」という題でメッセージしたいと思います。律法の専門家、今で言うなら神学者が、大事な知識の鍵を持ち去る、ということを見ていきたいと思えます。

<律法の専門家>

上記テキストの中で主は「忌まわしいものだ。律法の専門家たち。」として、律法の専門家を非難しています。律法の専門家とは誰か？というなら、聖書の律法の専門家のことであり、今でいうなら、神のことばの専門家である神学者のことといえるでしょう。

彼ら聖書の専門家が主により非難されてい

るのです。このことは、不思議といえば、不思議です。聖書の専門家が人の益にならず、逆に害になっているというのですから。

一般の世界では専門家のところへ行くとスキルがアップしたり、改善します。たとえば、テニスの手前な人がテニスの専門家のところへ行って練習すると、テニスがうまくなり、試合で勝てたりします。また、ピアノを弾けない人がピアノの専門家のところへ行き、練習するときれいなメロディーでピアノを弾いたりできるようになります。このように、普通は専門家のところへいけば、スキルがアップし、良い結果が出るものなのです。

しかし、いざ、聖書の学びに関しては、そうともいえないのです。逆に聖書の専門家である神学者のもとへ行ったために、得るべき知識を得られなかったり、誤った知識を得る、その結果、永遠の命を失うことさえある、そう警告されているのです。ですから、私たちが、聖書の専門家の話だから、とすっかり信用して聞いていると結果として、真理の知識から外れていたり、遠ざけられたりする可能性があるのです。主は律法の専門家、聖書の専門家が災いとなり、人々から知識の鍵を持ち去ることを語りました。

「知識の鍵を持ち去る」 エレミヤ

ですので、このことばが教えることはこのことです。すなわち、神学書は読めばよいというわけではない、注解書も買えばよいというものではない、神学者の話は素直にうのみにすれば良いというわけではない、ということなのです。逆に彼らの話や教えを吟味するべきである。そうしないと間違いに入ったり、知識の鍵を持ち去られたり、場合によっては、永遠の命を失う可能性さえあるのです。

彼らに関してはよくよく注意すべきです。以下の主のことばにも耳を傾けてください。宗教や聖書の専門家である、律法学者や、パリサイ人が天の御国に入る人々を妨げていることが描かれています。

マタイ 23:13 **しかし、忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、人々から天の御国をさえぎっているのです。自分もはならず、はいろいろとしている人々をもはらせないのです。**

さらに彼らのことばを信じ、盲信していくと、天国へ入るどころか、ゲヘナ、地獄へ直行することさえ、語られています。以下のとおりです。

マタイ23:15 **忌わしいものだ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。改宗者をひとりつくるのに、海と陸とを飛び回り、改宗者ができる、その人を自分より倍も悪いゲヘナの子にするからです。**

天の御国に入りたくて、聖書を学んでいるのに結果として、地獄へ直行とは、悪い冗談みたいですが。しかし、これは主ご自身がいわれていることなので、紛れもない事実なのです。そして、これは過去のことで終わりません。これは、また、今の時代の偽善の聖書学者や、宗教家にもいえることなのです。もし私たちが彼らのいうことを盲信して歩むなら、私たちは、天の御国に入るどころか、地獄へ直行する可能性が大いにあるのです。

<知識>

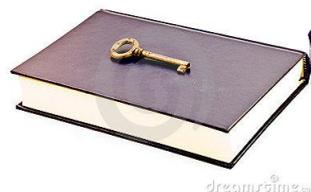
「知識の鍵を持ち去る」と書かれています。ここで使われている「知識」ということばに関して考えてみましょう。このことばと同じギリシャ語が以下の箇所でも使われています。

ルカ 1:77 **神の民に、罪の赦しによる救いの知識を与えるためである。**

この箇所では、救いを受け、永遠の命を受けるために必要な「知識」があることが語られています。ですから、聖書でいう「知識」とは、私たちが永遠の命を受けるのに必要な知識をさしていることがわかります。そして、主が非難している偽善な律法の専門家は、この知識、すなわち永遠の命に至るために必須な知識の鍵を持ち去ることがわかります。また、彼らはその知識に入ろうとする人々を妨害することがわかるのです。

<知識の鍵>

主は「知識の鍵を持ち去る」として、知識の「鍵」に関して語りました。このことに関して考えて見ましょう。知識の「鍵」とは何をさすのでしょうか？私はこのように考えます。世の中にはキーワードとか、キーポイントとかいうことばがあります。これらは鍵 (key) と関係することばです。重要なことばとか、鍵になることばに関して、キーワードとか、キーポイントとか呼ばれるわけです。さて、聖書を正しく理解し、永遠の命を得るためには、キーワードがあり、キーポイントがいくつかあります。そして、偽善なる律法の専門家は、その大事なキー (鍵) を持ち去るのです。



知識の鍵

<御国の奥義を理解するため鍵(key)となることば>

私たちが聖書の隠れた真理や奥義を理解するために、鍵(key)となることばがあります。その一つは「たとえを理解する」ことです。以下の様に書かれています。

マルコ4:10 さて、イエスだけになったとき、いつもつき従っている人たちが、十二弟子とともに、これらのたとえのことを尋ねた。

4:11 そこで、イエスは言われた。「あなたがたには、神の国の奥義が知らされているが、ほかの人たちには、すべてがたとえで言われるのです。

4:12 それは、『彼らは確かに見るには見るがわからず、聞くには聞くが悟らず、悔い改めて赦されることのないため。』です。」

4:13 そして彼らにこう言われた。「このたとえがわからないのですか。そんなことで、いったいどうしてたとえの理解ができませんか。」

ここで主は神の国の奥義とともに「たとえ」を理解することを語りました。それどころか、たとえを理解できない弟子たちを叱責して、「このたとえがわからないのですか。」と語りました。ですので、弟子にとっては、たとえを理解することが必須であり、たとえを理解できないと神の国の奥義を理解できないことがわかるのです。

<神の国の奥義はたとえを通して語られている>

この様に主は神の国の奥義はたとえと関連していることを語られました。また、以下の様に主ご自身のすべてのことばにはたとえが隠されていることを語られたのです。

マルコ4:33 イエスは、このように多くのたとえで、彼らの聞く力に応じて、みことばを話された。

4:34 たとえによらないで話されることはなかった。ただ、ご自分の弟子たちにだけは、すべてのことを解き明かされた。

ここではっきりと「たとえによらないで話されることはなかった」と明言されています。主のすべてのことばがたとえであること、そのたとえを理解すべきことが語られているのです。ですから、私たちは神の国の奥義を理解するつもりがあるなら、「たとえ」というキーワードを用いるべきであり、たとえという鍵(key)を用いるべきなのです。もし、私たちがたとえを用いず、この鍵(key)を用いないなら、神の国の奥義を理解することは難しいのです。

<宮の崩壊に関するたとえ>

上述したように、聖書は、主がたとえによらないで話すことはなかったことを語ります。ですので、あらゆる主のことばは、表面的な意味合いにとどまらず、その裏にたとえの意味合いがあるのです。その視点で主のことばを考え、終末に関する主のことばを考えて見ましょう。主はマタイ24章の終末に関する記事の中で「宮の崩壊」に関して述べました。以下の通りです。

マタイ24:1 イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の建物をさし示した。

24:2 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「このすべての物に目をみはっているのでしょうか。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」

ここで主は宮の崩壊に関して預言しています。この預言は2重に成就します。

「知識の鍵を持ち去る」 エレミヤ

一度目は、AD70年に成就しました。この時、背教のユダヤ人の都エルサレムは、ローマ軍により、侵攻され、宮は崩壊したのです。2度目は、終末の日に再度成就します。しかし、その際は文字通り、宮が崩壊する、というより、たとえて、成就する、と理解することが正しいと思われまます。このことがたとえて成就する、そう理解すべき理由はいくつかありますが、その最大の理由は、このことです。すなわち、そもそもエルサレムには宮が存在していない、ということです。財布に入っていない100ドル札を盗むことは不可能であるように、建っていない宮が崩壊することは不可能なのです。

そうです、今のエルサレムにはかつての宮は存在しません。それどころか、宮が建つべきモリヤの山の上にはイスラム教のドームが建っており、建設する場所も、スペースも皆無なのです。エルサレムの宮は、どこにでも建てればよい、というものではないのです。聖書には建てるべき場所がはっきりと明記されています。それは、モリヤ山上であり、そこ以外ありえないのです。そして、その場所はすでにイスラム教徒により、占拠されており、これからこの場所が空く可能性は皆無なのです。モリヤ山上は、イスラム教徒にとり、大事な聖地であり、彼らがここを手放すことは未来永劫ありえまません。

宮が再建される可能性は全くありません。しかし、何故このような事態になったのか？私はこのことは神からきた、と思っています。神は現在のエルサレムにはかつての宮など存在しないことを通して、また、これから再度宮が再建される可能性など皆無であり、ゼロであることを通して、私たちに、この預言、宮の崩壊の預言の理解に関して、ヒントを与えておられると思われまます。すなわち、私たちがこの預言に関して、「たとえ」の理解をするよう語られているように思われまます。ですから、宮の崩壊に関して、字義通りの解釈にこだわらず、たとえを理解してみましよう。宮に関して聖書はこう語ります。

エペソ2:20 あなたがたは使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身がその礎石です。

2:21 この方にあつて、組み合わされた建物の全体が成長し、主にある聖なる宮となるのであり、

2:22 このキリストにあつて、あなたがたもともに建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。

聖書は、神の教会がそのまま宮であると語るのです。そして、宮の土台は、使徒や預言者であり、また礎石はキリストなのです。ですから、マタイ24章で主が宮に関していわれたことば、「まことに、あなたがたに告げまます。ここでは、石がくずされずに、積みまされたまま残ることは決してありまません。」とのことばの意味合いは文字通りの宮の崩壊を語つたというより、たとえを通して、神の宮である教会の崩壊、背教の日に関して語つたと理解することが正しいのです。そしてそれは、以下のことばとも符合まます。

2テサロニケ2:3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まづ背教が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないからです。

2:4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、その上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言まます。

ここには、教会が終末の日に背教すること、さらに神の宮の座、キリストが座るべき座に不法の人、すなわち、反キリストが座ることが描かれています。教会がその背教のゆえに、キリストを神の座から追い出し、代わりに反キリストを教会の神として受入れる日に関して書かれています。

「知識の鍵を持ち去る」 エレミヤ

すなわち、神を礼拝する場所、宮としての教会が信仰的にも教理的にも崩壊する日に関して書かれているのです。その日には、宮である教会の信仰的な土台である、使徒や預言者の教えも教会から排除され、さらに礎石であるキリストの救いや福音も否定され、キリストは宮から排除されていくのでしょうか。そして、このことは、まさに主の預言したマタイ24章の宮の崩壊の日の成就なのです。

<知識の鍵を取り去る聖書学者>

さて、このように、終末の預言はたとえを理解することにより、正確に理解できます。しかし、今の時代の律法学者である、聖書学者や神学者は、このように大事な鍵であるたとえを排除しており、否定し、追い出しています。彼らは「靈的解釈はよろしくない」などと非難し、たとえの理解に反対しているのです。その代わりに彼らは「聖書は字義通りに訳すべき」などと、たとえについて語ったキリストと全く反対のことを奨励しているのです。

その結果、神学校からも、注解書からもたとえは追放されており、誰もたとえを理解しようとはしなくなりました。その結果、誰も彼も盲目になり、終末のことばも理解できず、天の御国の奥義も理解できなくなってしまったのです。まさしく、主のいわれた、「知識の鍵を持ち去る」とは、現在の聖書学者、神学者の間で成就しているのです。

そして、天の御国の奥義を知ることは彼らにより、妨害されているのです。

<知識の鍵が取り去られた時代>

今の時代をどう理解すべきなのでしょうか？私の理解では、今の時代こそ、知識の鍵

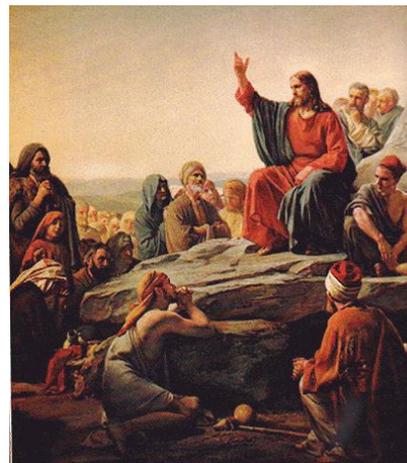
が取り去られた時代であると思えます。終末の預言を理解するために必要な大事な鍵がどれもこれも偽善な聖書学者、神学者により、取り去られているのです。結果、だれも正しい知識、真理の知識に至りません。

獣の国はアメリカであること、終末の日には、仮庵の祭りが重要であるなどの大事な知識を誰も知りません。

黙示録は大事な終末の日を悟るため、神が備えた重要な書なのですが、この書を悟るための鍵が持ち去られています。結果誰も終末の時代を悟らず、備えもできていないのです。

今のままでは、良くはありません。私たちはこれらの奪われた鍵を奪回し、真理の知識に至るべきなのです。このことを知しましょう。

—以上—



神の国の奥義

今回は、2016年5月14日に、土曜日の弟子の歩みの集会で、「安息日に仕事をしない」というテーマで、エレミヤ牧師がおすすめされていたことを、紹介させていただきたいと思います。以下、エレミヤ牧師によるメッセージです。

【聖書箇所】出エジプト記35:1-3

35:1 モーセはイスラエル人の全会衆を集めて彼らに言った。「これは、主が行なえと命じられたことばである。

35:2 六日間は仕事をしてもよい。しかし、七日目には、主の聖なる全き休みの安息を守らなければならない。この日に仕事をする者は、だれでも殺されなければならない。

35:3 安息の日には、あなたがたのどの住まいのどこでも、火をたいはならない。」

「安息日」とは、7日目のことで、「7つ目のミレニアム」に通じます。ですので、今がまさにそうです。私たちは「安息日」にいます。ゆえに仕事をしてはいけない、ということ言われているのです。

また、「仕事」とは、どういうことを言われているのでしょうか？同じ原語を見てみましょう。ちなみに、旧約聖書は通常ヘブル語で書かれています。しかし、70人訳では、ギリシャ語で書かれているそうです。そして、「仕事」ということばは、ギリシャ語で、「エルゴン」という意味です。

【聖書箇所】ピリピ人への手紙1:22

1:22 しかし、もしこの肉体のいのちが続くとしたら、私の働きが豊かな実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいのか、私にはわかりません。

ここに書かれている、「働き」ということばが、先ほどの、「仕事」と同じ意味です。そして、このことは、教会の奉仕のことを言われています。再び、出エジプト記に戻りますが・・・では、奉仕をしてはダメなのでしょうか？

2節で、7つ目のミレニアムは、奉仕をしてはいけませんよ～、ということ述べています。テサロニケ人への手紙に書かれていますように、これから教会が背教していくことを聖書は語ります。（Ⅱテサロニケ人への手紙2章3節）そうすると、奉仕者は反キリストを拝む、ということになり、働き人も同じようになっていくのです。そうすると、神の前に殺されてしまいます。そのようなことを、上記節では述べているのです。つまり、これから奉仕が仇になる日が来る、ということのみことばは語るのです。その時に奉仕をする者は、皆、殺されてしまうのです。

そして、7つ目のミレニアムは、異常な時です。ゆえに、奉仕に立たないことがベストである、ということのみことばは述べているのです。ちなみに、7つ目のミレニアムは、あらゆることが逆転する日です。「悪」を「善」と呼び、「善」が「悪」と呼ばれ、残念ながら教会において、「悪」が奨励されたり、迎合されたりしていくものと思われます。再び、出エジプト記に戻ります。

2節に書かれていますように、6日間は奉仕をしても良いのです。でも、7日目はNG！ということ言われています。そして、3節にありますように、「火」を焚いてはダメ、ということが書かれています。このことは、すなわち、霊的な火を下してはダメ、ということ言われています。つまり、どこの教会も、7日目は奉仕者が、皆、「悪霊の火」を下す、ということ述べているのです。ちなみに、黙示録にも、天から火を下したことについて書かれています。（ヨハネの黙示録13章13節）7日目は、公の教

会で働きをしている人が、反キリストの霊を下す奉仕者になる、ということです。公の教会がみな背教に入るのです。その日には、奉仕に立ち、反キリスト的な働きに関わってはダメですよ～、と言っているのです。さらにみことばを見ていきましょう。

【聖書箇所】出エジプト記16:25,26

16:25 それでモーセは言った。「きょうは、それを食べなさい。きょうは主の安息であるから。きょうはそれを野で見つけることはできません。

16:26 六日の間はそれを集めることができます。しかし安息の七日目には、それは、ありません。」

ここで、6日目と7日目の区分があります。神が天からマナを下されます。しかし、それは6日目まで、ということ、上記の節において言われております。そんな風に・・・6日目までは、教会でマナが下されるのを期待して良いのです。

しかし、7日目には、それが無いのです。教会にマナは降らないのです。教会に命のパンが下らないのです。ゆえに教会へ行っても期待出来ないのです。それは反キリストが支配しているからです。それゆえに、教会で語られるメッセージが、聖書とは全く違ったものだとしても、驚いてはダメなのです。そして、同章の20節にありますように・・・マナに虫がわいてしまうことが、いずれ実現すると思われれます。では、7日目はどうすれば良いのでしょうか？それは、6日目までのメッセージを食べれば良いのです。以下のみことばが、そのことを語ります。

【聖書箇所】出エジプト記16:29

16:29 主があなたがたに安息を与えられたことに、心せよ。それゆえ、六日目には、二日分のパンをあなたがたに与えている。七日目には、あなたがたはそれぞれ自分の場所にとどまれ。その所からだれも出てはならない。」

「六日目には、二日分のパンをあなたがたに与えている。」とありますように、6日目に、あらゆる良いメッセージがあります。ゆえに、6日目までの働き人の本とか、メッセージに目を留めていきたいと思います。

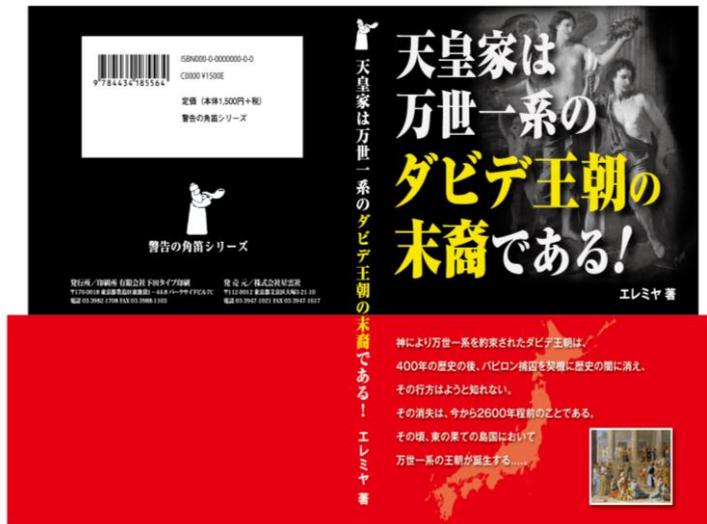
そして、「あなたがたはそれぞれ自分の場所にとどまれ。その所からだれも出てはならない。」と書かれていますように、6日目の場所から出てはいけません。ここに留まらないとダメなのです。ですので、他のパンを求めることに、御心は無いのです。他にも、「6日目」と「7日目」の区分に関して書かれている箇所がありますので、見てみましょう。

【聖書箇所】出エジプト記20:11

20:11 それは主が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にいるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言された。

主が、天と地と海を、「六日のうちに造った」ということが書かれています。そして、これはたとえです。「天と地」は、「教会」のたとえで、「海」は、「聖霊」のたとえです。このことは・・・神さまが6日間でこれらを造ったので、これ以上、造りようは無い、ということ言われています。すなわち、7日目はサタンが作ったものなので、受け入れてはダメ、ということです。つまり、七日目に、今までの教会の常識をひっくり返すようなことが起きるのです。今回の要点は・・・これから奉仕者が災いに入ることをみことばは述べている、ということです。今は、神の怒りが奉仕者に下る時であり、仕事、すなわち、奉仕をする事が仇になり、永遠の命を失い時代に入って行くことを、明らかに聖書は語っています。ゆえに、気を付けていきたいと思えます。

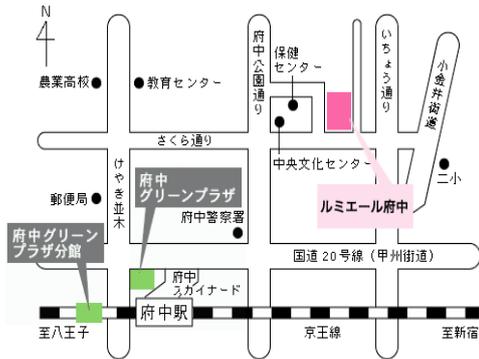
●エレミヤの新刊「天皇家は万世一系のダビデ王朝の末裔である！」



.....
 ● 定価:¥1,500+消費税 ※注文を御希望の方は、以下へご連絡下さい。
 ● 警告の角笛出版 tel:042-364-2327 fax:020-4623-5255
 ● mail:truth216@nifty.com

●レムナントキリスト教会「日曜礼拝」のご案内

曜日/時間:毎週日曜日 午前 10:30-12:30
 午後 14:00-16:00
 場所:東京都京王線府中駅前、府中グリーンプラザ本館
 (tel:042-360-3311)
 1Fのエレベーター脇の部屋表示板で、
 「レムナントキリスト教会」の部屋をご確認ください。
 どなたでも来会歓迎、入場無料です。



礼拝場所のURL: http://www.fuchu-cpf.or.jp/green/access/map_02.html

★教会のHPもあります。
 ご興味のある方は、“Yahoo! Japan”で、「府中 レムナントキリスト教会」で検索ください。
 尚、レムナントキリスト教会はプロテスタントの教会です。ものみの塔や統一教会とは関係ありません。

- ☆クリスチャンの方におすすめのサイト:エレミヤの部屋
<http://www.geocities.co.jp/Technopolis/6810/>
- ☆クリスチャン向けへのブログサイト:終末の風
<http://whattopics.at.webry.info/>
- ☆クリスチャンになったばかりの方やノンクリスチャンの方におすすめのサイト:オリーブ&ミルトス
<http://remnantnotudoi.jimdo.com/>
- ☆ノンクリスチャン向けへのブログサイト:パンの家
<http://87494333.at.webry.info/>